

感染症定期報告感染症別文献一覽表

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Vox Sanguinis 2009年6月25日	ドイツにおいて、自然治癒した急性肝炎の供血者血漿から、ヒトのHEV全長ゲノム配列を同定した。血清学的検査も行われ、肝臓の酵素上昇が発症する2週間前の血漿試料中には既にHEV-RNAが検出された。血漿提供者はブタHEVに感染した可能性が最も高く、特定のリスクグループ受血者に対しては、血液製剤のHEV核酸検査を義務化する議論を支持する結果となった。
2	E型肝炎	Zoonoses public health 2008; 55: 291-298	中国東部の家畜におけるHEV感染について調査した。抗HEV IgG陽性率はブタでは53.9～82.5%、ウシ6%、ヤギ24%、ウマ16.3%、イヌ17.8%、鶏1.9%、カモ12.8%、ハト4.4%であり、カモおよびハトを除き、E型肝炎ウイルスまたは類似ウイルスの感染が確認された。ブタ、ウマおよびヒトのHEV株を分離し、遺伝子解析をした結果、ウマおよびブタの一部はgenotype3型、それ以外はgenotype4型であり、ヒトの遺伝子型は系統学的にブタに関連するものであった。
3	E型肝炎	臨床とウイルス 2008; 36: 298-304	E型肝炎ウイルスおよびE型肝炎についての概略とともに、国内におけるE型肝炎の状況について述べている。国内ではヒトでの感染は動物由来であり、ブタ肉、鹿肉、猪肉を介したHEV感染が報告されている。
4	インフルエンザ	AASV 2009年1月15日	サウスダコタ州は19才の大学生がブタインフルエンザに感染したと報告し、A/H1型ウイルスが特定された。この症例は米国における初のブタインフルエンザによるヒト感染例である。ブタインフルエンザは稀であるがヒトに感染し、米国CDCが報告を受けるブタインフルエンザのヒト感染例は、年間約1例である。ヒトにおけるブタインフルエンザの症状は、季節性インフルエンザと同じ、咳を伴う発熱、喉や体の痛み、倦怠感である。
5	インフルエンザ	CDC Weekly Report/flu summary update 2009 Mar 6	2009年2月22～28日における米国内インフルエンザの推移状況。インフルエンザA(H1N1, H3, unsubtype)およびBの感染状況などの報告が述べられており、新規インフルエンザA(H1N1)ウイルスのヒトへの感染例は1例であり、病気のブタとの接触があった。
6	インフルエンザ	CFIA News Release 2009年5月2日	カナダ食品検査機関(CFIA)からの報告で、豚群にH1N1インフルエンザが検出された。食料供給の安全性には影響がなく、カナダ産豚肉は食べても引き続き安全である。群れは検査下に置かれ、CFIAは公衆衛生局と共同で作業をしており、これらの豚が人にウイルスを伝播させることはない。カナダでは豚は呼吸器疾患における通常の検査を通して、全国規模で継続したインフルエンザウイルスの検査を行い、4月24日から監視を強化している。
7	インフルエンザ	CIDRAP 2008年11月24日	米CDCは国内季節性インフルエンザに関する最新情報を更新し、ブタに曝露された1名がブタインフルエンザ(A/H1N1)に感染したことを報告した。これまでのブタインフルエンザ(A/H1N1)のヒト感染例に関する報告と、CDCの見解などが報告されている。
8	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009;14 5-6	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。患者に最近の旅行歴はなく、近縁者、同僚等において症状は認められていない。ブタ起源のヒト感染孤発例と考えられる。
9	インフルエンザ	Mebio 2008; 25: 22-27	鳥インフルエンザからの新型インフルエンザ発生メカニズムの概説。鳥インフルエンザがヒト体内で増殖する特性を獲得するまでには、多段階的な変異の蓄積が必要であり、ヒト-ヒト間で伝播するには更なる変異が必要である。
10	インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2616-2625	ヒト間で流行している現在のパンデミックが起こる直前の2005年12月～2009年2月に発生し、CDCに報告された3種再集合ウイルスであるブタインフルエンザウイルスA(H1N1)(トリ-ヒト-ブタ)による、最初の11件のヒト感染孤発例の臨床的特徴の報告である。9例はブタとの接触があり、他の2例はヒト間による伝播が疑われた。10例は発熱、咳、頭痛、下痢など通常の症状を呈し、4例がオセルタミビルを服用し、全例が回復した。
11	インフルエンザ	Nature 2009; 459: 931-939	ブタ起源H1N1ウイルスの出現とパンデミックの可能性についてのレビュー。インフルエンザAウイルスは、これまでにパンデミックをもたらし、毎年の流行を引き起こす。これらの効果的な予防と治療手段の可能性に結びつき、インフルエンザウイルス感染を制御するのに必須であることから、インフルエンザAの病原性と種間伝播性を決定するメカニズムについて概説している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
12	インフルエンザ	ProMED-mail20090422.1516 他	CDCは2009年4月17日、カリフォルニア州南部で小児に発生した熱性呼吸器疾患の2症例をブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスが原因と確定した。2例ともブタとの接触はなく、感染源は不明である。この2症例の概要と現在行っている調査についての報告である。
13	インフルエンザ	ProMED-mail20090502.1653	カナダのアルバータ州のブタ数頭がインフルエンザA(H1N1)ウイルスに感染した事を連邦当局が確認した。CFIAの発表では、最近メキシコから帰国し、インフルエンザ様症状を呈していたカナダ人から感染した可能性が高いと報告された。
14	インフルエンザ	ProMED-mail20090718.2560	英国で商業用ブタ飼育労働者がブタインフルエンザに感染した。ブタ飼育員がブタインフルエンザに感染した初の報告である。農場の他の職員とブタはH1N1ウイルスに感染していない。
15	インフルエンザ	ProMED-mail20090723.2603	カナダCFIAの調査員が2009年4月下旬、ブタへの新規ウイルス感染のアウトブレイクについて調査中、ブタインフルエンザに感染した。この事例は、ブタからの新規H1N1インフルエンザに感染したヒトにおける初めての報告である。
16	インフルエンザ	THE PIG SITE 2009年3月13日	フィリピンでのVitali村で12匹のブタが死亡し、その原因はブタインフルエンザであった。村の公衆衛生の悪さや最終診断に至っていない事も述べられている。
17	インフルエンザ	Vaccine 2008; 26: D67-D69	トリからヒト、ブタへ宿主を拡大したH5N1、H9N2及びH3N2の概説。異なる動物をreservoirsとするこれら3つのインフルエンザウイルスに着目し、地域的伝播、さらに宿主の違いがインフルエンザの抗原性および遺伝的変異に選択をもたらすことを述べている。
18	新型インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 17:6	メキシコで最近分離されたヒト感染ブタインフルエンザウイルスA(H1N1)について、予備的なゲノム解析を行った結果、HAセグメントについては北米のH1N1とH3N2(トリプルリアソータント)ブタウイルスと近縁、NAセグメントについては1992年に単離されたインフルエンザAに近いことがわかった。
19	新型インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 8-12	新型インフルエンザについて、数百の分離株の遺伝子配列が解析され公開データベースに蓄積されている。クラスター分析により近縁関係にある株を検討した結果、複数のブタインフルエンザウイルスに関連する遺伝情報が交雑していることが判明した。PB2、PB1、PA、HA、NP、NSのセグメントでは、北米で分離したブタインフルエンザウイルスH1N2及びH3N2との関連性が認められた。また、NAとMセグメントではユーラシア大陸で分離されたブタインフルエンザウイルスとの関連性が認められた。
20	新型インフルエンザ	IDSC 2009年5月2日	WHOによると、2009年5月2日午前8時30分(日本時間)現在、世界中で13カ国においてSwine-origin influenza A/H1N1感染の確定例367例が報告されており、メキシコ156例、アメリカ合衆国141例、カナダ34例(カナダ政府によれば51例)などである。367例中、死亡例は10例である。新たな発生国として、香港とデンマークが加わった。香港は輸入例である。また、韓国でも輸入例として確定症例が発生したとの情報もある。
21	新型インフルエンザ	J Clin Pathol 2009; 62: 577-578	2009年3月にメキシコ市で始まったブタインフルエンザA型H1N1の蔓延は、1516症例の確定診断がなされ、そのうち30人が死亡している。死亡は若い健康成人に圧倒的に多く、WHOはフェーズ5にレベルを引き上げており、パンデミックは目前に迫っている。新型ウイルスはヒト、ブタおよびトリのインフルエンザA型のリアソータントとして同定されている。新規ワクチンは既に開発中であり、CDCは治療と予防にはオセルタミビルおよびザナミビルの使用を推奨している。
22	新型インフルエンザ	J Clin Virol 2009; 45: 169-173	新型ブタ由来インフルエンザAH1N1ウイルスは新しい遺伝子分節を持ち、ブタを起源とする二つもしくはそれ以上の遺伝子再集合を経て発生した。ヒト間での感染は、季節性インフルエンザより高頻度であり、小児と若年成人への感染が多く認められる。臨床症状は概ね穏やかであるが、合併症により入院に至る事もある。既存のヒトインフルエンザウイルスと遺伝子再集合することで、更に感染しやすく、もしくは更に強い病原性を引き起こす懸念がある。

ID	感染症(PT)	出典	概要
23	新型インフルエンザ	J Clin Virol 2009; 45: 174-178	インフルエンザA型の赤血球凝集素(HA)血清型は16種類が知られているが、分子レベルでは6種類がヒトから単離されている。このうち3種類(H1,H2,H3)が過去のパンデミックで関与している。2009年H1N1が人獣感染を起こしたことから、過去のパンデミックを起こした血清型でさえ、新規のパンデミックを起こす脅威となると考えられる。2009年H1の蛋白配列の相違は、ヒト季節性インフルエンザH1と比べて約20-24%であるが、ヒト季節性インフルエンザH1と最も近縁な血清型H2との間では、約40-46%であり、2009H1は新しい血清型への移行期にある可能性を示唆している。現在の状況は偽不連続抗原変異(antigenic pseudo-shift)である。
24	新型インフルエンザ	Lancet 2009; 373: 1495	新型H1N1インフルエンザA型ウイルスに関する記事。WHOの対応や、米国およびメキシコにおける感染状況が述べられている。また、今後の対応についても提言している。
25	新型インフルエンザ	Medycyna Weterynaryjna 2009; 65: 363-368	2009年4月に、インフルエンザウイルスの最初の症例がインフルエンザA型H1N1の新しい種(ブタを起源とする未知の遺伝子再集合)によって、北アメリカで発生した。新規A型H1N1はパンデミックの可能性があり、ヒト-ヒト間で伝播される。更に、感染したヒトがブタ群での変異を誘導し、更なる遺伝子再集合のリスクを高めた可能性が示唆されている。
26	新型インフルエンザ	N Engl J Med 2009; 360: 2605-2615	4月15日から5月5日の間、米国の41州において、総計642症例からヒトにおける新規ブタインフルエンザA(H1N1)ウイルスの感染を確定した。患者は3カ月から81歳に亘り、60%の患者は18歳かそれ以下であった。共通に認められた症状は発熱、咳、のどの痛みであり、患者の25%に下痢、吐き気が認められた。入院患者の一部は肺炎や呼吸困難を伴い、死亡は2例であった。
27	新型インフルエンザ	Nature 2009; 458: 1082-1083	ブタインフルエンザの新型H1N1について、遺伝子型の特徴および2009年4月におけるWHOおよびCDCの対応が述べられている。また、ヒトに免疫がないことから新しいワクチンの必要性およびインフルエンザ感染による死亡率についての見解、更にはアメリカ政府の対応が報告されている。
28	新型インフルエンザ	Prog Biochem Biophys 2009; 36: 523-529	今年メキシコで起こったインフルエンザウイルスのアウトブレイクは、A/H1N1インフルエンザウイルスによるが、このウイルスは、ヒト、トリおよびブタインフルエンザウイルスの遺伝子フラグメントを含んでいる。自然宿主であるトリ、ブタおよびヒトインフルエンザウイルスの病原性のメカニズムを比較した。
29	新型インフルエンザ	ProMED-mail20090603.2056	USDAはブタインフルエンザに感染したブタとワクチン接種をしたブタから採取した血漿を調べ、商業用ブタの群れがブタ由来新型H1N1インフルエンザの影響を受けやすいか調べた。その結果、ブタ由来新型H1N1インフルエンザに対する限られた交差反応性が示された。米国内で過去にブタインフルエンザウイルスに免疫されていたも、現在ヒトで流行している新型2009A/H1N1からブタを守る事はできない事を示している。
30	新型インフルエンザ	ProMED-mail20090422.1516 / ProMED-mail20090630.2359 / WHO 2009年4月24日 / WHO 2009年6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年4月17日、CDCは発熱性呼吸器疾患を発症した子供2例がブタインフルエンザウイルスに感染したことを確認した。どちらの子供もブタとの接触はなく、感染源は分かっていない。感染した子供(10歳男子、9歳女子)の臨床症状やウイルスの疫学的調査および抗ウイルス薬に対する感受性について報告している。 ・ブタインフルエンザウイルスに感染した患者がタミフル耐性を示した初の症例が報告された。現在、H1N1のタミフル耐性株が流布している兆候はなく、他の抗ウイルス薬であるザナミビル(リレンザ)も有効である。英国ではブタインフルエンザ感染患者が急増しており、これまでに5937人に上った。また、ブタインフルエンザ感染により9歳女子が死亡し、英国内では3例目である。 ・2009年4月24日にWHO、メキシコ保健省からインフルエンザ様症状で約1000人の患者と60人の死者が発生したことが報告された。米国でも8人の患者が確認され、その後、当該疾患は新型インフルエンザであることが確認された。6月11日にはWHOは警戒レベルをフェーズ6に引き上げ、2009年6月29日現在で世界の感染者は70000人を超え、死亡者は300人以上である。 ・2009年6月29日現在、IHRの加盟国がWHOに正式に報告した、新型インフルエンザA(H1N1)の確定診断がなされた症例数が示されている。
31	新型インフルエンザ	Science 2009; 324: 1557-1561	メキシコにおける新型インフルエンザA(H1N1)のアウトブレイクと今後のパンデミックに対する早期評価についての報告。メキシコでは4月末までに23000人が感染したと推定され、推定致命率は0.4%である。臨床的重症度はスペイン風邪(1918~)よりは低く、アジア風邪(1957~)と同程度と推定される。疫学分析によるR0推定値は1.4~1.6、遺伝子解析によるR0推定値は1.2で、4月末までにメキシコでは14~73世代のヒト-ヒト感染が発生したと推定される。この感染力は季節性インフルエンザより大幅に高く、過去のパンデミックに匹敵する。

ID	感染症(PT)	出典	概要
32	新型インフルエンザ	Science 2009; 325: 197-201	新型インフルエンザA(H1N1)の抗原的及び遺伝的特徴について示している。2009年4月に特定された2009A(H1N1)ウイルスは直近の系統との間に類似性が無く、長期間検出されずに循環していた。また、遺伝的多様性が低く、ヒトへの感染は類似ウイルスの単回もしくは複数回の感染であったことが示唆される。ヒトへの順応を予測する分子マーカーは、現在存在しておらず、未知の分子決定因子がヒトへの伝播を果たしてきた。抗原的には、北米ブタA(H1N1)ウイルスと類似し、季節性ヒトA(H1N1)とは区別される。
33	新型インフルエンザ	WHO Pandemic(H1N1)2009 updatet59	WHOへの締約国による公式報告。検査によって確認されたパンデミック(H1N1)2009の症例数が示されている。
34	新型インフルエンザ	WHO/EPR 2009年4月24日	2009年4月24日現在、米国でのブタインフルエンザA/H1N1のヒト感染数は発症が7例、感染の疑いは9例であった。メキシコでは854例以上の肺炎症例が報告されており、首都近郊では59例の死亡が確認された。メキシコで採取された18検体はA/H1N1と確認され、そのうち12検体はカリフォルニアで採取されたウイルスと遺伝学的に同一であった。また、通常のインフルエンザと異なり、症例の多くは健康成人に感染した報告であった。
35	鳥インフルエンザ	IDSC 2009年1月27日	WHO更新情報。中国保健省はH5N1感染のヒト感染症例を新たに3例確認したと発表した。第一例目の新疆ウイグル自治区ウルムチの31歳女性は1月10日に発症し、1月23日に死亡した。第二例目は、貴州省貴陽市の29歳男性で、1月15日に発症し、重体である。第三例目は、広西壮族自治区北流市の18歳男性である。男性は1月19日に発症し、1月26日に死亡した。
36	鳥インフルエンザ	IDSC 2009年2月2日	WHO更新情報。中国保健省は、H5N1感染のヒト症例を新たに1例確認したと発表した。症例は湖南省Xupu郡の21歳女性である。女性は1月23日に発症し、臨牀的に安定した状態で入院中である。中国でこれまで確認された38例のうち、25例が死亡している。
37	鳥インフルエンザ	日本ウイルス学会 第56回 学術集会 p263	インドネシアにおいて、ブタへのH5N1鳥インフルエンザウイルス感染状況を調査し、ヒトへ伝播する可能性を含めた変異の解析を行った。その結果、ブタでは無症候性感染があり、ブタ由来H5N1ウイルスの中には、ヒトのレセプターを認識するヘムアグルニチン変異が存在していた。
38	エボラ出血熱	PIG PROGRESS 2009年1月7日 / WHO2009年3月31日	・フィリピンにおいてブタにエボラレストンウイルスが検出された。サル以外の動物での検出は世界初である。FAO、OIEおよびWHOの合同チームは現地入りし、調査を行う予定である。・2009年2月16日、フィリピン政府はブタと接触のあった食肉処理業者がエボラレストンウイルスに陽性であったと発表した。2008年12月以降、フィリピンでは6人が抗体に陽性であるが、健康状態は良好である。
39	エボラ出血熱	Science 2009; 325: 204-206	レストンエボラウイルスの宿主として初めてブタが報告された。フィリピンにおいて国産ブタが生殖や呼吸器の病気に懸かり、普通でない重篤な広がりが見現することがあるが、ブタを宿主とするエボラウイルスレストン株(REBOV)を発見した。REBOVはフィロウイルスの中では唯一ヒトにおける発症と無関係であるが、ヒトの食物連鎖に入る危険性が心配されている。検体から検出されたREBOVは多様性を示しており、最初にサルから検出されてから(それ以前より)ブタ間で循環していた事が示唆され、ブタやまだ知られていない宿主からサルに広がった可能性もある。
40	口蹄疫	OIE 2009年5月22日(8119)	中国における口蹄疫のアウトブレイクの報告である。Guangxi, Guilin, Lin'gui, Xi'nanの村において、ウシの疑い例は184例、症例12例、処分184例であった。ブタにおいては、疑い例570例、処分570例であった。
41	口蹄疫	OIE 2009年5月22日(8120)	中国における口蹄疫のアウトブレイクの報告。Guizhou, Linpanshui, Pan, Haixing chaoyang の村において、ウシ疑い例78例、症例71例、処分78例、ブタにおいて疑い例19例、症例19例、処分19例であった。
42	ウイルス感染	THE PIG SITE 2009年2月10日	英国Veterinary Laboratories Agencyは2008年12月の月刊疾病監視報告において、ブタサーコウイルス2型感染による非定型症例を報告した。生後6ヶ月のブタ一例は、肝臓がオレンジ色に肥大し極度の黄疸を呈した。免疫組織検査から肝細胞に重度の広範囲なPCV-2感染が確認された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
43	BSE	PLoS ONE 2008; 3: e2912	米国アラバマのBSE確定ウシとその2歳の仔ウシの両個体において、プリオン蛋白遺伝子の631～633でGAAとAAAがヘテロ接合型であることが分かった。両個体においてE211Kポリモルフィズムを有していることから、そのアレルが遺伝する可能性が初めて示された。
44	BSE	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	米国アラバマのBSE確定ウシでウシプリオン蛋白遺伝子(Pmp)におけるE211Kと呼ばれる新規の遺伝子変異を同定した。この変異は遺伝性CJDのヒトにおいて見られるE200K病理性変異と同一であり、ウシPmp遺伝子内で潜在的病原性変異を有するBSE確定ウシの最初の報告である。最近の疫学的試験によるとK211アレルは6062頭のウシで全く検出されず、E211K変異は極めて頻度が低い(2000例中1例未満)ことが報告された。
45	黄色ブドウ球菌感染	ProMED-mail20090126.0348	アイオワ大学の疫学者らは米国のブタを対象としたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に関する調査を行った。アイオワ州とイリノイ州の2つの農場において併せてブタ299頭及び養豚場で働く20名の検査を行った結果、生産システムAの農場では70%のブタ及び64%のヒトがMRSAのST398株のキャリアであった。一方、生産システムBの農場ではMRSAは検出されなかった。
46	黄色ブドウ球菌感染	THE PIG SITE 2009年1月23日 / AASV 2009年1月28日	アイオワ州とイリノイ州の二つの生産システムのブタ(299匹)と農場労働者(20人)から集められた鼻綿を検査した。生産システムAでは、MRSA ST398の流行がブタの70%、農場労働者の64%であったが、もう一方では、すべてのブタと労働者はMRSAに陰性であった。システムAでの高いMRSA有病率の理由は不明であるが、両システムは異なる業者からブタを輸入していることから、ST398はブタや豚肉製品を介して運ばれた可能性が示唆された。
47	黄色ブドウ球菌感染	J Antimicrob Chemother 2008; 62: 1181-1187	動物界、特にブタにおいてMRSAの新たな株が出現しており、ヒトへ感染を起こしている。本報告は、ヒト及び動物におけるMRSAの疫学、診断、感染制御に関する総説である。
48	黄色ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS 2009年3月2日	スイスで初めてブタ・ウシでのMRSA感染が確認された。ローザンヌ大学とガッリ・ヴァレリオ研究所が100以上の農場を調査した結果であり、このMRSAはST398株であった。ブタのMRSA感染はオランダ、デンマーク、カナダ、米国で認められている。
49	レンサ球菌感染	Can J Vet Res 2008; 72: 242-248	カナダ・オンタリオの50のブタ群において、離乳ブタについて5つの注目すべき上気道病原体を検査した。1つの群を除いてすべての群でブタレンサ球菌がPCR陽性、2つの群を除いてすべての群でブタバラインフルエンザ菌がPCR陽性であった。アクチノバシラス・プルロニューモニエは78%でPCR陽性であり、また、94%はアクチノバシラス・スイスがPCR陽性であった。毒素産生株であるバストセラ・マルトシダは1群でのみ検出された。
50	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1925-1927	米国養豚業者のブタレンサ球菌に対する職業的曝露の研究。ブタに曝露した成人73例と、曝露していない67例が比較され、曝露群は、ブタレンサ球菌に対して10倍以上の抗体価を有するオッズ比は8.8であった。また、リスクファクターの解析から、曝露群では9.6%がブタレンサ球菌に陽性を示し、非曝露群では1.5%であった。現在考えられているよりも高頻度にブタレンサ球菌に感染していることが示唆された。
51	レンサ球菌感染	総合臨床 2008; 57: 2680-2685	近年、アジア諸国でレンサ球菌感染の集団発生が続発していることも含め、ブタレンサ球菌のヒトでの感染症および生物学的性状についての概略。劇症型感染症が起きること、ヒトへの感染ではブタに感染源を特定できる点が他のレンサ球菌による感染症と異なっている。
52	炭疽	ProMED-mail20090328.1202	ロシアのVoronezh地域でブタの炭疽菌感染が確認された。感染ブタの死体は焼却され、感染原因は調査中である。この地域での炭疽菌感染は1964年以来なかった。
53	サルモネラ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-6	2008年11月-12月、ノルウェイおよびデンマークはそれぞれMLVA法で分類されるSalmonella Typhimurium感染によるアウトブレイクを特定した。デンマークでは全37症例が特定され、ノルウェイでは10例、スウェーデンでは4症例が特定された。スウェーデンで購入したデンマーク産肉が可能性のある感染源として示された。12月19日にノルウェイから警告がなされ、デンマークおよびノルウェイのアウトブレイクは同一であり、3国すべてのアウトブレイク感染源はデンマーク産豚肉由来である事が確認された。MLVAは異なる国間でのアウトブレイクをつなぎ、感染源を追跡する方法として有効である。

ID	感染症(PT)	出典	概要
54	サルモネラ	PIG PROGRESS 2009年3月11日 / ProMED-mail20090413.1407	・フィンランドで鳥の飼料にサルモネラ菌が検出された。飼料会社Rehuraioによって生産された豚飼料にサルモネラ菌が検出されており、豚飼育場から鳥飼料に伝播した可能性がある。フィンランド食品安全局EVIRAおよび飼料会社は適切な対応を取っている。 ・フィンランドではRaisio飼料工場からサルモネラのアウトブレイクが起こり、農務省はサルモネラ対策と法規制の強化を考えている。法改正されると、鳥や豚用に輸入される大豆飼料は製品化される前にサルモネラを除去することになる。
55	サルモネラ	ProMED-mail20090209.0582	フィリピン・サマル州において2008年12月以降、ブタでサルモネラ感染が流行し、84頭が死亡、約772頭が罹患した。その他25頭は感染疑いで屠殺された。地域の農業省職員は、感染は制御されたと報告しており、現在までにこの地域からの病気のブタは報告されていない。
56	サルモネラ	THE PIG SITE 2009年2月2日 / ProMED-mail20090211.0624	・フィリピン保健省はSamar自治区Santa Rita町で750匹のブタがサルモネラに感染したと報告した。このうち48匹のブタはバクテリアによる死亡と確認された。感染したブタからのバクテリアによるヒトでの発病については監視がなされていない。 ・2009年2月9日、フィリピンの西部Visayasでは1月以降、罹患ブタの数は1000近くに上り、250匹が死亡し、続いて178症例の新しい感染報告がなされた。1月末の公表では、Samar自治区Sta Ritaから約700匹のブタが、同自治区Daramから60匹、Leyte自治区Babatongonの3つの村から25匹のブタにサルモネラ感染が疑われたと公表した。
57	サルモネラ	Zoonoses public health 2008; 55: 455-461	カナダで市販されているブタ耳ペットフードにサルモネラ菌が混入している割合は4%であり、単離株は最大7種類の抗菌薬に耐性を示した。カナダでは動物由来のペットフードによるヒトサルモネラ集団感染が起き、1999年に政府が指導を行った。サルモネラ菌混入の割合は減少したが、ブタ耳ペットフードがサルモネラ菌感染源となる可能性は現在でも示唆されることが報告された。
58	インフルエンザ菌	Can J Vet Res 2008; 72: 242-248	カナダ・オンタリオの50のブタ群において、離乳ブタについて5つの注目すべき上気道病原体を検査した。1つの群を除いてすべての群でブタレンサ球菌がPCR陽性、2つの群を除いてすべての群でブタバラインフルエンザ菌がPCR陽性であった。アクチノバシラス・プルロニューモニエは78%でPCR陽性であり、また、94%はアクチノバシラス・スイスがPCR陽性であった。毒素産生株であるバツレラ・マルトシダは1群でのみ検出された。
59	細菌感染	Wien Klin Wochenschr 2009; 121: 149-156	オーストリア健康食品局は、血液培養の結果、Listeria monocytogenes陽性となった下痢性疾患の発生報告を受けた。豚肉を使った料理を食べ発熱性胃腸炎を発症した患者から、Listeria monocytogenesが検出された。15人中12人が発熱性胃腸炎を発症し、1例については回復後、細菌性髄膜炎を発症した。オーストリアでのL.monocytogenesによる胃腸炎の最初の報告である。
60	旋毛虫症	ProMED-mail20090405.1312	ロシアで旋毛虫感染により屠畜されたブタを押収したが、既に、食用として購入・消費された。感染したヒトは特定されており、医療観察中である。
61	旋毛虫症	THE PIG SITE 2009年2月20日	・2009年2月20日、ベトナム当局は旋毛虫感染のアウトブレイクを報告した。2008年12月5日から、Son La地域のLang Cheu地区、Bac Yen地区で発生し、ブタ735匹中158匹が感染し、感染ブタは屠殺された。 ・ベトナムにおける旋毛虫症:発生日 2008年5月12日、最初の確定日 2008年12月5日、報告日 2009年2月20日、原因 旋毛虫。2008年12月5日にSON LA省Bac Yen地区Lang Cheuで旋毛虫のアウトブレイクが発生した。疑い例はブタ735頭、確定例はブタ158頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。